

柏崎刈羽燃料装荷中断

東電 モーター電源不具合

柏崎刈羽原発7号機(新潟県)で15日から原子炉内に核燃料を入れる燃料装荷を開始している東京電力は17日、制御棒1本分の駆動用モーターの電源の不具合が見つかり、燃料装荷を一時中断したと発表しました。原因は調査中で、再開の見通しは立っていないとい

ます。装荷を開始した15日夜にも、信号のエラーのため作業が3時間停止しています。

燃料装荷は再稼働に向けて必要な検査の一環。15日午後から開始し、17日午前8時時点で、核燃料872体のうち41体の装荷が完了しています。

東電によると、17日午前7時すぎ、制御棒挿入の準備のため、駆動用モーターのブレーキカーを入れましたが、そのすぐ後で制御棒1本分のブレーキカーが落ちました。

東電は、問題の制御

棒が挿入されている箇所にはすべて制御棒が挿入されているため、おらず、その他の核燃料が装荷されている箇所

所にはすべて制御棒が挿入されているため、安全上の問題はないとされています。